



Title	公認会計士による業務領域の拡大と職業倫理：第89回アカデミー賞事件を題材に
Author(s)	岡野, 泰樹
Citation	経済学研究, 70(2), 101-109
Issue Date	2020-12-17
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/80164
Type	bulletin (article)
File Information	50_ES_70(2)_101.pdf



[Instructions for use](#)

公認会計士による業務領域の拡大と職業倫理

——第 89 回アカデミー賞事件を題材に——

岡野 泰 樹

I. はじめに

財務的側面に限定されない組織活動の様々な側面に対するアカウントビリティの要求が高まるにつれて、また、投資意思決定において、財務情報に限定されない多様な非財務情報が重視されるようになるにつれて、アカウントビリティの解除と様々な情報・活動の信頼性を確保する役割を担う、公認会計士による業務領域も拡大しつつある。

社会のニーズを反映した業務領域の拡大は、公認会計士の存在意義を示し、その発展をもたらすものである。しかしながら、その一方で、業務領域の拡大を巡っては、コマーシャリズム（利益指向の営利主義）が重視され、公認会計士が堅持すべきプロフェッショナリズム（独立的な職業専門家としての誠実性を備えた職業意識）が軽視される危険性も指摘されてきた¹⁾。

本稿は、会計プロフェッショナリズム、とりわけその原点としての職業倫理²⁾に業務領域の拡大が与える影響を、第 89 回アカデミー賞事件を題材に検討するものである。これにより、業務領域の拡大に潜む問題点を理解し、公認会計士による健全な業務の発展に寄与することを意図している。

本節に続く第 II 節では、公認会計士が備えるべき倫理（以下、会計職業倫理）の概要を確認し、第 III 節では、第 89 回アカデミー賞事件を

概観するとともに、会計職業倫理の観点からその問題点を検討する。第 IV 節では、これらの検討を通じた結論を述べる。

II. 会計職業倫理

1. 会計職業倫理の基礎となる一般倫理

Mautz and Sharaf [1961] が「監査分野における倫理的行動、或いはその他の分野におけるそれは、哲学者が人間のために一般的に考案したところの倫理的行為に関する一般論を特定の分野に適用することにほかならない。監査における倫理的行為は、倫理の一般論からその正当性と本質が引き出される」³⁾と述べているように、会計職業倫理は、一般倫理を基礎に導かれるものである。いかなる一般倫理を基礎とするかについては様々な議論があるが、本稿では、倫理を「実践的な」研究として位置付け、会計職業倫理を展開した、Cheffers and Pakaluk [2007] の議論をもとに、会計職業倫理の概要を見ていくこととする。会計職業倫理は、抽象的なものではなく、社会の人々の信頼を得るために監査人の行動がどうあるべきか、ということの「具体的、実践的な」行動のルールとして理解されるためである⁴⁾。

Cheffers and Pakaluk *ibid.* は、実践的な研究に適した一般倫理として、古代ギリシャの哲学者（ソクラテス、プラトン、アリストテレス）

1) 八田 [2009] 31 頁。

2) 吉見 [2005] 62 頁。

3) Mautz and Sharaf *ibid.* 邦訳 315 頁。

4) 八田 [2016] 13 頁。

に源流を持つ徳倫理を援用し、会計職業倫理を展開している。そこでは、善人になる、良い行為を行うといった、倫理の目的を達成するためには、その主体にしか実行できない任務、もしくは、その主体が最も良く実行できる任務である「本分」を理解し、その本分をより良く実行できるようにする特徴である「徳」を備える必要があることが指摘されている⁵⁾。本分と徳の関係をわかりやすいように物で考えると、ナイフの本分は物を安全に切ることであり、徳は鋭利性や頑丈性、握りやすさ等があげられる⁶⁾。

人間の「本分」と「徳」は物のように単純には考えられないが、Cheffers and Pakaluk [2007] は、アリストテレスに依拠して、「理性を用いて他の人と社会的な生活を営むこと」を人間の「本分」としている⁷⁾。ここで「理性を用いる」とは、真実（精神と現実との一致）を理解、探求、利用することとされるが、かかる真実には、精神を現実に合わせて、つまり、現実を正確に理解するという「思弁的な真実」と、現実を精神に合わせて、つまり、規範に現実を適合させたり、願望を実現するために現状を変えるという「実践的な真実」があるとされる⁸⁾。そして、本分をよりよく実行できるようにする特徴としての人間の「徳」は、思弁的な真実に対応する徳である「知恵」と、実践的な真実に対応する「正義、勇気、節制」の四元徳にまとめられるとしている⁹⁾。

以上のことから、一般倫理の目的（善人になる、良い行為を行う）は、知恵、正義、勇気、節制という、四元徳を身に付け、理性を用いて他の人と社会的な生活を営むことで達成される

ものと理解される。

2. 公認会計士の本分と徳

会計職業倫理の目的は、上述した一般倫理を基礎にすると、良い公認会計士になる、良い監査（保証）を行うこととなるが、こうした目的を達成するためには、公認会計士の「本分」とそれをより良く実行できるようにする特徴である「徳」を理解する必要がある。

Cheffers and Pakaluk *ibid.* は、公認会計士の「本分」を「現代市場経済の信頼状況を整えるために、企業の財政状態に関する真実を探りそれを示すこと」¹⁰⁾ とし、それに基づく公認会計士の「徳」を四元徳（知恵、正義、勇気、節制）に対応させる形で次のように示している。

まず、知恵に対応する徳としては、公認会計士が有する会計・監査に関する専門知識・技能、監査対象に関する理解、それらに基づく判断をあげている¹¹⁾。次に、正義に対応する徳としては、公共の利益に資する義務や、クライアントとの関係における慎重性・機密保持に関する義務、専門職全体としての高い評判を守るという義務を認識することをあげている¹²⁾。勇気に対応する徳としては、周囲の圧力に屈せず真実を探求・開示するために必要な正当な注意をあげている¹³⁾。また、Cheffers and Pakaluk *ibid.* では明示されていないが、誠実性も勇気に関係する徳と考えることができる。Dellaportas *et al.* [2012] によると、誠実性の原則は、社会的に正しいことに正面から向き合い、個人的・外的な圧力や要求に屈しない、勇気を発揮しなければならない、と専門職に考えさせるものである¹⁴⁾。最後に、節制に対応する徳としては、自己利益に耐える、独立性と客

5) Cheffers and Pakaluk *ibid.* pp.71-72. 邦訳85-87頁。なお、以下、本稿では必ずしも邦訳書の訳によっていない。

6) *ibid.*, p.72. 同上 86頁。

7) *ibid.*, pp.74-75. 同上 90頁。

8) *ibid.*, p.75. 同上 90-91頁。

9) *ibid.*, pp.75-76. 同上 91-92頁。ここでの正義は、義務や規則の遵守を意味している。

10) *ibid.*, p.79. 同上 96頁。

11) *ibid.*, 同上 96-97頁。

12) *ibid.*, p.80. 同上 97頁。

13) *ibid.*, pp.80-81. 同上 97-98頁。

14) Dellaportas *et al.* [2012] 邦訳 136頁。

観性の保持をあげている¹⁵⁾。

以上の公認会計士の徳は、我が国も含めた公認会計士の倫理規則において、基本原則として具体化され、その遵守が求められているものである。日本公認会計士協会の倫理規則では、基本原則として①誠実性の原則、②公正性の原則、③職業的専門家としての能力及び正当な注意の原則、④守秘義務の原則、⑤職業的専門家としての行動の原則、をあげているが¹⁶⁾、これは公認会計士の徳（四元徳）との関係で概ね表1のように結び付けられるだろう。

ただし、Cheffers and Pakaluk [2007] が示した公認会計士の本分と四元徳は、財務諸表監査を念頭に記述されていることから、多様な業務が公認会計士によって実施されている今日状況に応じて、若干の修正がなされる必要がある。本稿では、公認会計士の本分を「現代社会の信頼状況を整えるために、組織の多様な活動に関する真実を探りそれを示すこと」と、より一般的に理解するとともに、これに応じて、四元徳の知恵に対応する徳に含まれる専門知識も必ずしも会計に限定されないものと理解する。

Ⅲ. 第 89 回アカデミー賞事件と会計職業倫理

1. アカデミー賞の概要

アカデミー賞（通称オスカー）は、1927年に創立された、映画芸術科学アカデミー（The Academy of Motion Picture Arts and Sciences）によって、映画産業全般における顕著な業績に

表 1 倫理規則における基本原則と公認会計士の徳

倫理規則における基本原則	公認会計士の徳（四元徳）
誠実性の原則	勇氣
公正性の原則	節制
職業的専門家としての能力及び正当な注意の原則	知恵及び勇氣
守秘義務の原則	正義
職業的専門家としての行動の原則	正義

15) Cheffers and Pakaluk *ibid.*, p.81. 邦訳 98-99 頁。

16) 日本公認会計士協会 [2019] 2-5 頁。

対して与えられる賞である。ただし、映画芸術科学アカデミー（以下、アカデミー）自体は、アカデミー賞の授与を第一の目的として創立されたものではない¹⁷⁾。それは、もともと労働組合対策を念頭に創立されたものである¹⁸⁾。

ハリウッドが映画産業の中心となった1910年代は、映画産業に従事する小道具係や照明係といった専門職が、明確な労働協約がないまま劣悪な条件で働かされていた時代であり、1920年代に入ると、こうした専門職は、労働組合を結成し、労働条件の改善や、賃金引上げを経営陣（映画制作会社）に要求するようになった¹⁹⁾。アカデミーは、こうした労働組合の要求に対する調停を行うために、制作会社、監督、俳優、脚本家、カメラマン等、映画産業に従事する人々全般を会員とした組織として創立されたのである²⁰⁾。このように、創立当初のアカデミーの実質的な目的は、労働組合対策にあったが、表向きには「映画芸術および科学の質の向上を図ること」が目的とされ、その活動の一環として、映画産業における顕著な業績に賞を与えることとされたのである²¹⁾。

現在のアカデミー賞は、作品賞、監督賞、脚本賞、主演男優賞、主演女優賞等、全24部門から構成されているが、その選出は、基本的には、各部門ごとの投票でノミネーション（候補作・候補者）が選出された後、決選投票によって最終的な受賞作・受賞者（以下、まとめて受賞作）が選出されるという手順がとられている²²⁾。各部門のノミネーションの選出は、その部門に属しているアカデミーの会員、例えば、主演男優賞のノミネーションであれば、俳

17) 筈見・渡辺 [2013] 10 頁。

18) 川本 [2004] 36 頁、筈見・渡辺 [2013] 8 頁。

19) 同上。

20) 川本 同上 37 頁。

21) 同上 38 頁。

22) ここでの選出に関する記述は、日外アソシエーツ [2009] 426 頁、メラミー [2020] 30-32 頁、37-39 頁に基づいている。

優部門の会員による投票によって行われるが、最終的な受賞作を選出する決選投票は、全会員によって行われる。ただし、作品賞だけは、ノミネーションの段階から、全会員による投票で選出される。

選出された受賞作は、授賞式の当日、各部門の担当プレゼンターによって発表されるまでは非公開となっており、後述する二名の公認会計士（会計事務所 PwC のパートナー）を除けば、その結果を事前に知る者はいない。

2. アカデミー賞と公認会計士

アカデミー賞を決定する会員による投票の集計管理は、四大会計事務所の一角である PwC によって行われている。しかし、PwC による投票の集計管理は、その当初から行われていたわけではない。それは、アカデミー賞を決定する投票プロセスの誠実性に疑問が呈される中で、行われるようになってきたものである。

上述したように、現在のアカデミー賞は、ノミネーション、受賞作ともに、会員による投票で選出するという形をとっている。しかし、初期のアカデミー賞は、ノミネーションのみを会員による投票で選出し、最終的な受賞作については、別途設けられた審査委員会によって選出するという形をとっていた²³⁾。当該審査委員会には、アカデミーを先導し、アカデミー賞の授賞式への資金援助をしている、主要な映画スタジオの有力者と親しい人物が含まれていたことに加え、その選出結果は、一般的には評判の芳しくない演技を行った俳優を含め、アカデミーの創設メンバーが不自然なほどに多く含まれていたことから、次第にその投票プロセスの誠実性に疑問が呈されるようになった²⁴⁾。

かかる状況に対応するために、アカデミーは審査委員会を廃止し、アカデミー賞の選出を会

員の投票に委ねるとともに、1936年（第8回アカデミー賞）からその投票の集計を、アカデミーから独立した組織である PwC に依頼することとしたのである²⁵⁾。さらに、1940年からは、授賞式当日まで、集計結果（受賞作）の機密を保持する役割も PwC に担わせている²⁶⁾。集計結果は当初、一定期日まで公表しないことを条件に事前に報道機関に通知されていたが、この条件を破り報道する機関が出てきたためである²⁷⁾。

PwC によるこうした業務は、直接報告（direct reporting）業務として²⁸⁾、二人のパートナーを中心としたチームにより、次のようなプロセスで行われている²⁹⁾。

投票の集計は、まず、チームを分割した少数からなるグループによって行われ、次に、二人のパートナーによって、それぞれのグループによる集計結果が総合される。集計は、機密性を保つため、窓が無く、入れ子構造が採用された複雑な形をとる非公開の場所で、約1,700人時かけて手作業で行われる。

その後、集計によって確定された受賞作の名が記載されたカードが封筒に詰められ、鍵付きのブリーフケースの中に保管される。受賞作名が記載されたカードと、それが保管されるブリーフケースは、同一のものが二組用意され、各パートナーが、それぞれアカデミー賞の授賞式会場まで別々のルートを使って輸送する。これは、何らかの事故でブリーフケースが会場に届かなくなるという事態を避けるためである。

授賞式当日は、各パートナーが、会場の両袖

23) Levy [1990] pp.8-9. 邦訳 30-31頁, Feinberg and Kilday [2017].

24) Feinberg and Kilday *ibid.*.

25) Feinberg and Kilday *ibid.*, 管見・渡辺 同上 40頁。なお、投票の集計管理を依頼された当時は Price Waterhouse であり、その後の合併によって現在の PwC となっている。

26) 管見・渡辺 同上。

27) Levy *ibid.*, p.13. 邦訳 35頁。

28) Knechel and Salterio [2016] p.15.

29) PwC による投票の集計から授賞式当日までのプロセスに関する記述は, Burke [2017], Newquist [2010], Saulnier [2014] に基づいている。

に待機し、各部門の担当プレゼンターが受賞作を発表する直前に、受賞作名が記載されたカードが入った封筒を当該プレゼンターに手渡す。各パートナーは、機密性の保持と不測の事態（例えば、プレゼンターが受賞作を誤って読み上げた場合等）に備え、全ての部門の受賞作名を記憶している。ブリーフケースに保管されたカードとパートナーの記憶の中以外には、受賞作が記載される場所はない。したがって、プレゼンターが封筒を開封し、カードに記された受賞作を発表する前に受賞作を知っているのは、PwCの二人のパートナーのみである。

3. 第89回アカデミー賞事件³⁰⁾

2017年2月26日、第89回アカデミー賞授賞式が、米国カリフォルニア州ロサンゼルス市のドルビー・シアターで開催された。上述したように、現在のアカデミー賞は24部門からなるが、最も注目が集まるのが、授賞式の最後に発表される作品賞である。

第89回アカデミー賞における作品賞の発表では、著名俳優のウォーレン・ベイティ（Warren Beatty）と、同じく著名女優のフェイ・ダナウェイ（Faye Dunaway）がプレゼンターを務め、映画「ラ・ラ・ランド（La La Land）」の受賞が発表された。ラ・ラ・ランドの制作陣は、賞を受け取るために舞台上がり、受賞スピーチを開始したが、その数分後、ラ・ラ・ランドの作品賞受賞は誤りであり、実際の受賞作は「ムーンライト（Moonlight）」であることが発表されると、会場は大混乱に陥った。

その後、この作品賞の発表の誤りは、プレゼンターに受賞作名が記載されたカードの入った封筒を手渡す役割を担うPwCのパートナーが、誤った封筒を手渡していたことによるものであることが明らかになった。PwCのパートナー

であるブライアン・カリナン（Brian Cullinan）は、作品賞のカードが入った封筒ではなく、既に発表済みであった主演女優賞のカードが入った封筒をプレゼンターに渡していたのである。

授賞式終了後、PwCは次のような声明を発表し、事件の責任がPwCにあることを認めている。

「PwCは、オスカーの最後の夜におきた、一連の誤り、定められたプロトコルが守られなかったことについて全ての責任を負います。PwCのパートナーであるブライアン・カリナンは…プレゼンターのウォーレン・ベイティとフェイ・ダナウェイのお二人に、誤って予備の封筒を手渡していました。この誤りが起こったあと、訂正のための手続きにカリナンと彼のパートナーはすぐに従いませんでした。我々は、ラ・ラ・ランドとムーンライトのキャストとクルーが経験した失望にたいし、深くお詫び申し上げます。我々は、ウォーレン・ベイティ、フェイ・ダナウェイ、ジミー・キンメル、ABCテレビ、そしてアカデミーに深くお詫び申し上げます。授賞式の夜の誤りは彼らの誰のせいでもありません…我々がアカデミーを裏切りました」³¹⁾。

4. 会計職業倫理から見た問題点

作品賞の誤発表という事件が起こった直接的な原因は、PwCが認めているように、ブライアン・カリナンがプレゼンターに誤った封筒を手渡していたことにある。しかし、こうした誤りに至るまでには、会計職業倫理に係るいくつかの問題があったことが見て取れる。

第一に、複数の報道から、カリナンは誤った封筒をプレゼンターに手渡す直前、すなわち業務中に、アカデミーから使用を控えるよう言わ

30) 事件に関する記述は、Barnes and Buckley [2017], Pond [2017], メラミー [2020] 178-181 頁に基づいている。

31) Abott and Buslepp [2018] p.13. なお、ジミー・キンメル（Jimmy Kimmel）は第89回アカデミー賞の司会者、ABCテレビは、アカデミー賞授賞式の模様を全米に生中継するテレビ局である。

れていた自身のソーシャルメディア (Twitter) に、主演女優賞を受賞したエマ・ストーン (Emma Stone) の写真を投稿するという、注意に欠ける不適切な行動をとっていたことが明らかになっている³²⁾。カリナンはアカデミー賞の集計管理業務を担当するようになって以降、こうした著名俳優・女優の写真、あるいは自身が著名俳優・女優と共に撮った写真を度々ソーシャルメディアに投稿していたようである³³⁾。

こうした行為は、クライアントであるアカデミーとの関係における慎重性に関する義務に背く行為であり、注意深く、適切に、かつ適時に専門業務を提供するという責任を含む³⁴⁾、正当な注意を欠いた行為であると言える。この点で公認会計士が備えるべき正義と勇気をカリナンは欠いていたといえる。また、写真の投稿という自己の利益を優先した点で、節制も欠いていたといえる。

第二に、プレゼンターが誤った作品 (ラ・ラ・ランド) を受賞作として発表した際に、カリナンともう一人のアカデミー賞担当パートナーであるマーサ・ルイス (Martha Ruiz) は、誤りを正すための行動を直ちに取るができなかった³⁵⁾。上述したように、このような不測の事態に備え、二人の PwC パートナーは、全ての受賞作を記憶しているはずであり、誤った発表がなされた際には、ステージに上がり、訂正を伝えるとされていた³⁶⁾。しかし、カリナンが発表に誤りがあったと考え、ルイスが持つ予備の封筒がチェックされるまでには、1分以上の時間が費やされた³⁷⁾。授賞式を管理す

るステージ・マネージャーは、ルイスと共に予備の封筒から実際の受賞作 (ムーンライト) を確認し、訂正のため、カリナンとルイスにステージに上がることを求めたが、彼らはそれを躊躇したようである³⁸⁾。最終的に、ラ・ラ・ランドの制作陣が既に開始していた受賞スピーチを止めに入ったのは、カリナンとルイスではなく、ステージ・マネージャーであった³⁹⁾。これは、誤った作品賞が発表されてからおよそ3分後のことである⁴⁰⁾。

二人の PwC パートナーのこうした行動は、正しいことに正面から向き合い、個人的・外的な圧力や要求に屈しないという、勇気を明らかに欠いた行動であるといえる。加えて、二人の PwC パートナーには、こうした間違いが起こるはずがないという、先入観・過信があったようである。アカデミー賞の授賞式直前に受けたインタビューの中で、カリナンは間違いが起こった際の対応を説明する一方、長い歴史の中でそのような間違いが起きたことはなく、起こる可能性はほとんどないということを強調している⁴¹⁾。

さらに、以上の個人 (パートナー) レベルでの二つの問題に関係した事務所レベルでの問題も指摘できる。華やかで魅力的なアカデミー賞への関与は、地味で退屈な仕事という公認会計士のステレオタイプのイメージ⁴²⁾への反動となり、会計事務所のブランドを高め、利益をもたらすものである⁴³⁾。PwC は、アカデミー賞への関与をホームページや Twitter のようなソーシャルメディアを用いて、積極的に宣伝している。今回の事件を引き起こしたパートナーであるブライアン・カリナンについても、事務

32) Fritz *et al.* [2017] 投稿されたエマ・ストーンの写真は現在ブライアン・カリナンの Twitter から削除されているが、インターネット上のオンライン雑誌では、現在もその写真を見ることができる (例えば Leonard and Petit [2017] を参照)。

33) Spargo [2017].

34) 日本公認会計士協会 [2019] 3頁。

35) Pond [2017].

36) Jacobs [2017], Jennings [2014] p.34.

37),38) Pond *ibid.*

39) Barnes *et al.* [2019].

40) Abbott and Buslepp [2018].

41) Jacobs *ibid.*

42) Barnes and Buckley [2017], Jeacle [2014] p.804.

43) Jeacle *ibid.*

所の Twitter の中で、著名俳優であるマット・デイモン (Matt Damon) 似のアカデミー賞業務担当者として紹介していた⁴⁴⁾。

業務中に使用を控えることを求められていたソーシャルメディアを使用するという、正当な注意を欠いたカリナンの行動は、本来、PwC (会計事務所) における内部統制、即ち、品質管理を徹底することで、防ぐことができた問題のように思われる。ソーシャルメディアの不注意な使用により、機密情報が流出する危険性が社会的に認識されている昨今の状況において、プレゼンターが発表する直前まで投票集計結果の機密性を保持する役割を担う PwC は、その役割の遂行に失敗をもたらす要因に特段の注意を払い、対応をとる必要があったはずである。

しかし、今回の事件が起こるまで、PwC が、カリナンがアカデミー賞の集計管理担当者になって以降度々行なっていたような、アカデミー賞における著名俳優・女優等の写真のソーシャルメディアへの投稿を禁止するようなことはなかった⁴⁵⁾。むしろ、事務所レベルでアカデミー賞への関与をソーシャルメディアを通じて宣伝することで、個人の安易なソーシャルメディアの使用を助長するような気風を形成していたように思われる。ここには、独立的な職業専門家としての誠実性を備えた職業意識よりも、宣伝によってもたらされる利益を重視する営利主義的な姿勢への傾斜が見て取れるのである。

また、誤った受賞作が発表された際に、それを正すための「正式な」行動の手順も、事務所レベルで整備されていなかった⁴⁶⁾。ブライア

ン・カリナンとマーサ・ルイスは、上述の授賞式直前に受けたインタビューの中で、誤った発表がなされた際にはステージに上がり訂正を伝えたと述べた一方、その正確な手順は不明であると述べている⁴⁷⁾。PwC とアカデミーとの関係は、投票の集計を担当するようになった1936年以降、80年以上に渡って続いている。カリナンの「長い歴史の中で間違いが起きたことはなく、起こる可能性はほとんどない」という意識は、事務所レベルで共有されていたものであり、その中で醸成されていたように思われるのである。

IV. 結語

財務諸表監査に留まらない様々な業務が公認会計士によって実施されつつある一方で、それらの失敗事例の報告はまだ少なく、具体的にいかなる問題があるのかについては明らかにされていない。本稿は、その数少ない事例の一つであるアカデミー賞事件を取り上げ、会計職業倫理の観点から問題点を検討した。

アカデミー賞事件は、公認会計士に特徴的な独立性に関する倫理の欠如というよりも、より一般的な倫理の欠如によって引き起こされたものと考えられる。こうした倫理の欠如を招いた背景には、会計事務所の不十分な品質管理体制という問題が存在しており、それは会計事務所の営利主義的な姿勢と、クライアントとの長期的な関係性から生じたように思われる。

公認会計士が担う業務の多様性がますます拡がりつつある今日、会計事務所は各業務の品質管理体制を、それに影響を与える個別特殊な背景要因も十分に考慮しながら、早急に整える必要がある。そこでは、公認会計士に特徴的な

44) PwC による Twitter でのカリナンのこうした紹介は、インターネット上のオンライン雑誌で現在も見ることができる (例えば Spargo [2017] を参照)。

45) 今回の事件後に PwC が示した再発防止策の中では、PwC の業務担当者がアカデミー賞授賞式の間ソーシャルメディアを使用することを一切禁止するとしている (Crilly [2018])。

46) 誤った受賞作が発表された際の正式な行動の手順の整備は、上述のソーシャルメディアの使用禁止と合わせて、今回の事件後に PwC によってなされている (Crilly *ibid.*)。

47) Jacobs [2017]。

独立性に関係する倫理のみならず、より一般的な倫理の確保にも改めて目を向けなければならない。それを欠いた状態での業務領域の拡大は、その原動力であるはずの会計職業倫理を自ら毀損することに繋がるであろう。

付記：本稿は、JSPS 科研費 JP20K13643 による研究成果の一部である。

参考文献

- Abbott, L. and Buslepp, W. [2018] "An Investigation of the Market's Perception and Pricing of Auditor Competence: Evidence from PwC's Oscars Blunder", *SSRN Electronic Journal* (https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3216232).
- Barnes, B. and Buckley, C. [2017] "What it was like onstage during the Oscars 2017 Best Picture mistake", *The New York Times*, February 27. (<https://www.nytimes.com/2017/02/27/movies/oscars-best-picture-moonlight-academy-awards.html>)
- Barnes, B., Cussatt, M. and Harp, M. [2019] "Audit Firm Reputation and Client Stock Returns: Evidence from Envelopegate", *SSRN Electronic Journal* (https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3240290).
- Burke, T. [2017] "Meet the two PwC partners who handed out the Oscars Envelopes", *MarketWatch Online* February 27. (<https://www.marketwatch.com/story/meet-the-two-people-who-already-know-the-oscar-winners-2017-02-24>)
- Cheffers, M. and Pakaluk, M. [2007] *Understanding Accounting Ethics-2nd Edition*, Allen David Press. (藤沼亜起監訳・公認会計士の職業倫理研究会訳 [2011] 『会計倫理の基礎と実践－公認会計士の職業倫理』同文館出版。)
- Crilly, R. [2018] "The six step plan to prevent repeat of 'Oscars Envelopegate' ", *The Telegraph* January 22. (<https://www.telegraph.co.uk/news/2018/01/22/six-step-plan-prevent-repeat-oscars-envelopegate/>)
- Dellaportas, S., Thomsen, S. and Conyon, M. [2012] *Principles of ethics and corporate governance in financial services*, McGraw-Hill Australia Pty Limited.
- (浦崎直浩・菅原智監訳 [2016] 『会計職業倫理の基礎知識』中央経済社。)
- Feinberg, S. and Kilday, G. [2017] "Oscars: The Academy's long, cozy relationship with its Accountants", *Hollywood Reporter Online* March 3. (<https://www.hollywoodreporter.com/race/oscars-academys-longstanding-relationship-accountants-question-981547>)
- Fritz, B., Rapoport, M. and Schwarzel, E. [2017] "PwC partner at Oscars tweeted backstage minutes before Best Picture mix-up", *Wall Street Journal Online* February 27. (<https://www.wsj.com/articles/pwc-partner-in-charge-of-oscar-winner-envelopes-was-tweeting-backstage-minutes-before-best-picture-mix-up-1488227883>)
- Jacobs, M. [2017] "What Would Happen If A Presenter Announced The Wrong Winner At The Oscars?", *Huffpost*, May 11. (https://www.huffpost.com/entry/oscar-wrong-winner-marisa-tomei_n_58af326de4b0a8a9b780339f)
- Jeacle, I. [2014] "And the BAFTA goes to [...] : the assurance role of the auditor in the film awards ceremony", *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, Vol.27 No.5, pp.778-808.
- Jennings, M. [2014] "The Lessons on The Role of Auditors from The Academy Awards", *Corporate Financial Review*, May/June 2014, pp.34-37.
- Knechel, W. and Salterio, S. [2016] *Auditing: Assurance and Risk (Fourth Edition)*, Routledge.
- Leonard, E. and Petit, S. [2017] "PwC Accountant Brian Cullinan Was Asked Not to Tweet During Oscars: His Job 'Was to Be His Only Focus,' Source Says", *People* February 28. (<https://people.com/awards/brian-cullinan-asked-not-to-tweet-during-oscars-ceremony/>)
- Levy, E. [1990] *And the Winner is...the History and Politics of the Oscar Awards*, Continuum Intl Pub Group. (濱口幸一訳 [1992] 『アカデミー賞全史』文藝春秋。)
- Mautz, R. and Sharaf, H. [1961] *The Philosophy of Auditing*, American Accounting Association. (関西監査研究会訳 [1987] 『監査理論の構造』中央経済社。)
- Newquist, C. [2010] "PwC Backs in the Oscar Gold", *goingconcern* February 12. (<https://goingconcern.com/pwc-basks-in-the-oscar-gold/>)

- Pond, S. [2017] "Oscars Stage Manager Details PwC Accountant's Incompetence: 'They Froze' ", *Aol March* 2. (<https://www.aol.com/article/entertainment/2017/03/02/oscars-stage-manager-details-pwc-accountants-incompetence-the/21871981/>)
- Saulnier, B. [2014] "And the Winner is... Brian Cullinan's 82, who knows who won the Oscars before the rest of the world", *Cornell Alumni Magazine* May/June 2014. (<http://cornellalumnimagazine.com/and-the-winner-is/>)
- Spargo, C. [2017] "The bean-counter who blundered: Cornell-educated Accountant and 'Matt Damon Lookalike' father-of-three who loves selfies with celebrities is revealed as man who caused the biggest mistake in Oscar history", *Daily Mail online* February 27. (<https://www.dailymail.co.uk/news/article-4265340/Accountant-caused-biggest-blunder-Oscar-history.html>)
- 川本三郎 [2004] 『アカデミー賞－オスカーをめぐるエピソード』 中公文庫。
- 日外アソシエーツ (編) [2009] 『映画の賞事典』 日外アソシエーツ。
- 日本公認会計士協会 [2019] 「倫理規則」。
- 筈見有弘・渡辺祥子 (監修) [2013] 『アカデミー賞記録事典』 キネマ旬報社。
- 八田進二 [2009] 『会計プロフェッションと監査－会計・監査・ガバナンスの視点から』 同文館出版。
- [2016] 『公認会計士倫理読本－国際的な信任を得るための鍵－平成28年増補版』 財経詳報社。
- メラミー [2020] 『なぜオスカーはおもしろいのか？－受賞予想で100倍楽しむ「アカデミー賞」』 星海社新書。
- 吉見宏 [2005] 「会計プロフェッショナルリズムの原点としての職業倫理」『現代監査』第15号, 62-68頁。
- [2012] 「会計倫理とその事例分析」『企業会計』第64巻第8号, 50-56頁。